

検査情報月報



2018
2019
10月

横浜市衛生研究所

平成30年10月号 目次

【トピックス】

夏期食品収去検査結果(平成30年度)	1
農産物の残留農薬検査結果(平成30年7月～8月)	3

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 9月	6
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	10
---------------------	----

夏期食品収去検査結果(平成30年度)

夏期食品等一斉点検は厚生労働省大臣官房生活衛生・食品安全審議官から出された「平成30年度食品、添加物等の夏期一斉取締りの実施について」の通知に基づき、夏期に多発する食中毒等食品による事故防止と食品衛生の確保を目的に全国一斉に実施されました。

本市においては平成30年6月1日から8月31日まで夏期取締り期間と定め、一斉点検を行いました。そのうち、健康福祉局食品専門監視班と各区福祉保健センターによる収去により搬入された検体について、当所が行った食品添加物検査と細菌検査の結果について報告します。

1 食品添加物検査

搬入された194検体(輸入品85検体、国産品109検体)の食品について、清涼飲料水、野菜類・果実及びその加工品などを重点的に、保存料、着色料、甘味料など3,312項目の検査を実施しました(表1)。

その結果、いずれも食品衛生法及び食品表示法に適合していました。

表1 食品添加物検査結果

平成30年6～8月

大分類	検体数	違反検体数	項目数	検査項目						
				保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	漂白剤	発色剤	品質保持剤
魚介類加工品	17		148	27	104		5	8	4	
肉卵類及びその加工品	17		288	48	221		2		17	
乳製品	3		12	12						
穀類及びその加工品	6		79	18	53		3			5
野菜類・果実及びその加工品	34		491	81	343	52	5	10		
菓子類	24		412	45	289	36	42			
清涼飲料水	42		1,038	372	577	88	1			
酒精飲料	9		153	24	119	2	8			
かん詰・びん詰食品	20		286	42	194	24	25	1		
その他の食品	22		405	48	306	23	26	2		
合計	194	0	3,312	717	2,206	225	117	21	21	5

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

2 細菌検査

細菌検査の内訳は、清涼飲料水・弁当・そうざいなど187検体450項目(表2)でした。
検査の結果、規格基準*1違反はありませんでした。また、衛生規範*2不適もありませんでした。

*1 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたもののことです。

*2 衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。

表2 細菌検査結果

平成30年6～8月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数	違反・不適 検体数	違反・不適理由
魚介類				
生食用鮮魚介類(刺身用切り身等)	8	8		
冷凍食品				
無加熱摂取冷凍食品	1	2		
凍結直前に加熱された加熱後摂取冷凍食品	3	6		
凍結直前未加熱の加熱後摂取冷凍食品	11	22		
魚介類加工品				
魚肉ねり製品	1	1		
冷凍ゆでがに	1	3		
肉卵類及びその加工品				
食肉製品(ハム・ソーセージ等)	10	29		
乳製品				
ナチュラルチーズ	4	4		
穀類及びその加工品				
生めん、餃子の皮	14	42		
ゆでめん、むしめん	3	9		
野菜類・果実及びその加工品				
浅漬	7	7		
野菜	22	132		
菓子類				
洋生菓子	2	6		
清涼飲料水				
清涼飲料水	22	22		
ミネラルウォーター	4	8		
その他の食品、ふきとり				
弁当・そうざい類(加熱処理品)	23	69		
弁当・そうざい類(未加熱処理品)	41	60		
ふきとり(器具等)	10	20		
合 計	187	450	0	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

農産物の残留農薬検査結果(平成30年7月～8月)

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、平成30年7月及び8月に健康福祉局食品専門監視班、各区福祉保健センターが収去した農産物等の検査結果を報告します。

1 市内産農産物

7月に収去された日本なし及びぶどう(各2検体)の合計4検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。計5種類7項目の農薬が検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

2 国内産農産物

7月に収去されたじゃがいも、にんじん(各2検体)及びキャベツ(1検体)の合計5検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。その結果、農薬が検出されたものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

3 野菜冷凍食品

8月に収去されたいんげん、オクラ、カリフラワー、ブロッコリー、ほうれんそう及びれんこん(各1検体)の合計6検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。オクラからイミダクロプリドが0.02ppm検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

今回の検査で検出された農薬の概要については、5ページの【農薬解説】を参考にしてください。

表1 残留農薬検査結果

(H30年7～8月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農産物						
日本なし	横浜市	2	2 *	<ul style="list-style-type: none"> 〔クレソキシムメチル 〔クロルフェナピル 〔クレソキシムメチル 〔チアメトキサム 〔テブコナゾール 	0.09 0.01 0.07 0.06 0.22	5 1 5 1 5
ぶどう	横浜市	2	2	イミダクロプリド	0.03、0.05	3
国内産農産物						
キャベツ	岩手県	1	0			
じゃがいも	静岡県	1	0			
	鹿児島県	1	0			
にんじん	青森県	2	0			
野菜冷凍食品						
いんげん	中国	1	0			
オクラ	中国	1	1	イミダクロプリド	0.02	0.7
カリフラワー	中国	1	0			
ブロッコリー	中国	1	0			
ほうれんそう	中国	1	0			
れんこん	中国	1	0			

*中括弧(())は同一検体からの検出

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物			
		A*1	B*1	C*1	D*1			A	B	C	D
BHC (α, β, γ 及び δ の和)	0.005	○*2	-*2	○	○	トリアジメノール	0.01	○	○	○	-
DDT (DDE,DDD,DDTの和*3)	0.005	○	○	○	○	トリアゾホス	0.01	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	トリチコナゾール	0.01	○	○	○	-
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	トリフルラリン	0.01	○	-	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	トリフロキシストロビン	0.01	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○
アラクロール	0.01	○	○	○	○	トルフェンピラド	0.01	○	○	○	-
アルドリリン及びディルドリン	0.005	○	-	○	○	ノバルロン	0.01	○	○	○	○
イソキサチオン	0.01	-	○	○	○	パラチオン	0.01	○	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	ビフェントリン	0.01	○	○	○	○
エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	ピラクロストロビン	0.01	○	-	-	-
エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○	ピリダベン	0.01	○	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	○	ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○
エンドスルファン (α 及び β の和)	0.005	○	○	○	○	ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○
エンドリン	0.005	○	○	○	○	ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○
オキサミル	0.01	○	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○
カルバリル	0.01	○	○	○	○	ピリメタニル	0.01	○	-	-	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	-	ファモキサドン	0.01	○	○	○	○
クミルロン	0.01	○	○	○	○	フィプロニル	0.002	○	○	○	○
クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○	フェナリモル	0.01	○	○	○	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	-	フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○
クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○
クロルプロファム	0.01	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○
クロロクスロン	0.01	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	-	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	-
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	フェンプロバトリン	0.01	○	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	フサライド	0.01	○	○	○	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○
シニドンエチル	0.01	○	○	-	-	フルジオキシニル	0.01	○	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	-	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	フルバリネート	0.01	○	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	-	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○
シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○
ジメトエート	0.01	○	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	-	プロバホス	0.01	○	○	○	○
シラフルオフエン	0.01	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	プロモプロピレート	0.01	○	○	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○
チアトキサム	0.01	○	-	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	-	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○
テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	ペンコナゾール	0.01	○	○	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○
テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○
テフルトリン	0.01	○	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○

表 2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物			
		A	B	C	D			A	B	C	D
ボスカリド	0.01	○	○	-	○	メトキシフェノジド	0.01	○	○	○	○
ホスチアゼート	0.01	○	○	○	-	メトラクロール	0.01	○	○	○	○
マラチオン	0.01	○	○	○	○	リニュロン	0.01	○	○	○	○
ミクロブタニル	0.01	○	○	○	○	リンデン(γ-BHC)	0.005	○	○	○	○
メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	○	○	○	○
メチダチオン	0.01	○	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○	○

*1 A: いんげん、オクラ、にんじん、ブロッコリー、ほうれんそう B: カリフラワー、キャベツ

C: ジャがいも、れんこん D: 日本なし、ぶどう

*2 ○: 実施、-: 実施せず

*3 DDTは*p,p'*-DDE、*p,p'*-DDD、*o,p'*-DDT及び*p,p'*-DDTの和

【農薬解説】

○イミダクロプリド

『アドマイヤー』などの商品名で販売されている殺虫剤で、特にハモグリガ類に効果があります。殺虫効果が長く持続し、作物の薬害がほとんどありません。

○クレソキシムメチル

『ストロビー』などの商品名で販売されている殺菌剤です。特にうどんこ病、黒星病、べと病などに対して効果があります。

○クロルフェナピル

『コテツ』などの商品名で販売されている殺虫・殺ダニ剤です。従来の殺虫剤に耐性があるコナガやハダニ等に対しても効果があります。

○チアメトキサム

『アクタラ』などの商品名で販売されている殺虫剤で、野菜、果樹、芝のアブラムシ類、カメムシ類、コガネムシ類などに対して効果があります。

○テブコナゾール

『シルバキュア』などの商品名で販売されている殺菌剤です。小麦の赤かび病や果樹のうどんこ病、黒星病などに対して効果があります。

※参考文献

- ・一般社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2016年版

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 9月

《今月のトピックス》

- 風しんの報告数が増加しています。
- A型肝炎の報告が多い状態が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈9月期に報告された全数把握疾患〉

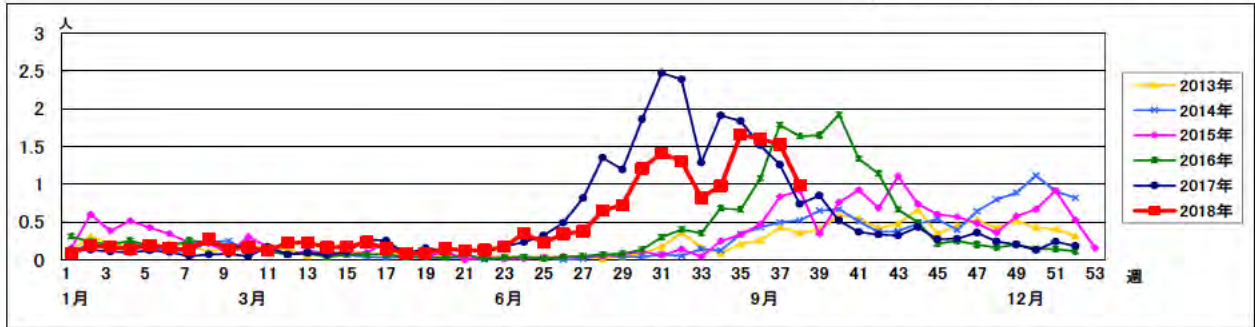
腸管出血性大腸菌感染症	23件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	3件
A型肝炎	5件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
デング熱	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
レジオネラ症	1件	水痘(入院例に限る)	3件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	11件
ウイルス性肝炎	4件	百日咳	28件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	11件	風しん	31件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	—	—

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が17件(うち5件が無症状病原体保有者)、O121の報告が1件、O145の報告が2件(いずれも無症状病原体保有者)、O不明の報告が3件(うち1件が無症状病原体保有者)ありました。
- E型肝炎: 4件の報告があり、1件は経口感染、3件は感染経路等不明でした。
- A型肝炎: 推定される感染経路は、経口感染が国内で1件、エチオピアで1件、同性間性的接触が2件、感染経路等不明が1件で、いずれもワクチン接種なし、または不明でした。
- デング熱: フィリピンでの蚊からの感染と推定される報告が2件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が1件あり、感染経路不明です。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- ウイルス性肝炎: B型の報告が4件ありました。感染経路は、異性間性的接触が2件、不明1件、針等または性的接触が1件でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 11件の報告があり、感染経路等不明でした。
- クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型CJDの報告が1件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: B群の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSの報告が2件、無症状病原体保有者の報告が1件ありました。男性2件、女性1件でした。いずれも異性間性的接触で、感染地域は国内1件、台湾1件、不明1件でした。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 90歳代の報告が1件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児の報告が2件(ワクチン4回接種1件、3回接種1件)、70歳代の報告が1件(ワクチン接種なし)ありました。
- 水痘(入院例に限る): 60歳代および80歳代の検査診断例の報告が1件ずつ(いずれもワクチン接種不明)、40歳代の臨床診断例の報告が1件(ワクチン接種なし)ありました。
- 梅毒: 11件の報告(無症状病原体保有者6件、早期顕症梅毒Ⅰ期3件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。感染地域は9件が国内、2件が不明で、感染経路は異性間の性的接触が7件、同性間の性的接触が1件、詳細不明の性的接触が2件、不明が1件です。男性7件、女性4件でした。
- 百日咳: 10歳未満では乳児が2件(ワクチン接種なし)、小児で10件(いずれもワクチン接種4回あり)の報告があり、10歳代で3件(ワクチン接種4回あり)、30歳代で2件(ワクチン接種不明)、40歳代4件(ワクチン接種なし1件、不明3件)、50歳代5件(ワクチン接種不明5件)、60歳以上2件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 風しん: 検査診断例28件、臨床診断例3件が報告されています。10歳未満1件(ワクチン接種なし)、10歳代1件(ワクチン接種なし)、20歳代2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)、30歳代9件(ワクチン接種なし1件、不明8件)、40歳代8件(ワクチン接種あり1件、なし2件、不明5件)、50歳代9件(ワクチン接種あり1件、なし2件、不明6件)、60歳代1件(ワクチン接種不明)でした。

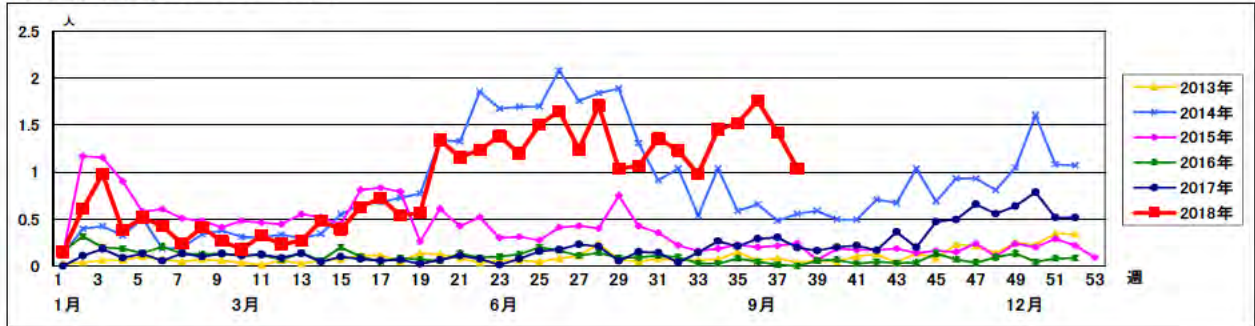
◇ 定点把握の対象

- 1 RSウイルス感染症: 第27週で定点あたり0.37、第28週で0.65、第30週で1.21と増加傾向となり、第35週で1.66となってピークとなりました。その後は漸減し、第38週で0.99となっています。

報告週対応表	
第35週	8月27日～9月 2日
第36週	9月 3日～9月 9日
第37週	9月10日～9月16日
第38週	9月17日～9月23日



- 2 伝染性紅斑: 2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第38週では定点あたり1.04となっています。



3 性感染症(8月)

性器クラミジア感染症	男性:24件	女性:28件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 8件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性: 9件	女性: 1件	淋菌感染症	男性: 9件	女性: 4件

4 基幹定点週報

	第35週	第36週	第37週	第38週
細菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.75	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	8件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点30件、内科定点6件、基幹定点12件、眼科定点3件で、定点外医療機関からは4件でした。

10月9日現在、ウイルス分離4株と各種ウイルス遺伝子17件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(9月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ*	RS感染症	手足口病*	ヘルパンギーナ	無菌性髄膜炎	パレコウイルス感染症	hMPVウイルス感染症
インフルエンザ AH1pdm 型			1						
インフルエンザ AH3 型			1						
アデノ 2 型	1								
パラインフルエンザ 3 型	1	1							
ヒトメタニューモ				1					3
RS				4					
ライノ				1					
コクサッキー A4 型						1			
コクサッキー A9 型							1		
コクサッキー B4 型						1	1		
ノロ G2 型	1								
エンテロ 71 型					1			1	
合計	1 2	1	1 1	6	1	1 1	2	1	3

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*:疑い含む

〈細菌検査〉

「菌株同定」の主な依頼は、基幹定点から百日咳菌、サルモネラ菌、G群溶血性レンサ球菌が各1件となっており、非定点からの依頼は、ありませんでした。保健所からは、腸管出血性大腸菌17件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌10件、肺炎球菌2件、劇症型溶血性レンサ球菌、コレラ菌各1件となっています。

「分離同定」の検査は、非定点からレプトスピラ4件、コレラ菌1件があり、いずれも検出しています。

「小児科サーベイランス」では、A群溶血性レンサ球菌が1件検出しています。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(9月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
医療機関 基幹定点	百日咳菌	1	<i>Bordetella pertussis</i> I相
	サルモネラ菌	1	<i>Salmonella</i> Thompson
	G群溶血性レンサ球菌	1	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp <i>equisimilis</i> G群
保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	10	<i>Enterobacter aerogenes</i> (5)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (4)、 <i>Serratia marcescens</i> (1)
	腸管出血性大腸菌	17	O157:H7 VT1VT2(6)、O157:H7 VT2(3)、 O157:H- VT1VT2(4)、O157:H- VT2(2)、 O121:H19 VT2(1)、O145:H- VT2(1)
	コレラ菌	1	<i>Vibrio cholerae</i> non O1&O139 CT(-)
	肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 型別不能
	劇症型溶血性レンサ球菌	1	B群3型

分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
医療機関 非定点	レプトスピラ	全血	1	検出(<i>Leptospira interrogans</i> 遺伝子)
		髄液	1	不検出
		血清	2	抗体検出(血清型 Hebdomadis)
保健所	コレラ菌	便	1	<i>Vibrio cholerae</i> non O1&O139

小児科サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	1	T28型

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成30年9月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数

平成30年9月の総アクセス数は、140,129件でした。前月に比べ約1%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*165.9%、保健情報9.3%、検査情報月報3.8%、食品衛生2.2%、生活環境衛生1.8%、薬事0.9%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

9月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに?」、2位は「大麻(マリファナ)について」、3位は「水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について」でした。7位には、「インフルエンザ流行情報(2017/2018)」が入り、流行に対する関心の高さがうかがえます。

表1 平成30年9月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに?」	13,617
2	大麻(マリファナ)について	7,131
3	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	5,430
4	横浜市感染症情報センタートップページ	4,968
5	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	4,843
6	衛生研究所トップページ	3,469
7	インフルエンザ流行情報(2017/2018)	2,208
8	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	2,109
9	EBウイルスと伝染性単核症について	2,011
10	ぎょう虫(蟯虫)症について	1,881

データ提供: 市民局広報課

電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに?」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/kaisen.pdf>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/chicken1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

平成30年9月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 平成30年9月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
番組協力の依頼について	1	感染症・疫学情報課
台湾駐在中の子供の予防接種について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事

平成30年9月に追加・更新した主な記事は、13件でした(表3)。

表3 平成30年9月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
9月 4日	感染症に気をつけよう(9月号)	掲載
9月 5日	2018年度蚊媒介感染症サーベイランス結果【速報版】	更新
9月 5日	全国の熱中症患者発生状況	更新
9月11日	ドイツのこどもの定期予防接種について	更新
9月11日	全国の熱中症患者発生状況	更新
9月13日	横浜市風しん流行情報1号	掲載
9月18日	オランダのこどもの定期予防接種について	更新
9月19日	全国の熱中症患者発生状況	更新
9月20日	2018年度蚊媒介感染症サーベイランス結果【速報版】	更新
9月21日	平成30年 熱中症情報	更新
9月25日	全国の熱中症患者発生状況	更新
9月26日	全国の熱中症患者発生状況	更新
9月27日	横浜市風しん流行情報2号	掲載

【 感染症・疫学情報課 】